

# 第13回 レジ袋削減対策

公共政策教材

# なぜレジ袋の使用削減か？

- スーパー等で配布されるレジ袋はプラスチック製容器包装の中で大きな割合を占めており、その安易な配布・使用を抑制し、買い物袋の持参を促進することは、ごみの発生抑制を図る上で喫緊の課題。
- レジ袋が家庭から出るプラスチックごみに占める割合は約15%
- レジ袋は、私たちの暮らしに身近で、また、消費者の主体的な行動により使用を選択できる容器包装。このため、レジ袋使用削減の推進は、ごみの発生抑制に関する消費者の意識の向上に大きな効果。

# 改正容器包装リサイクル法

## 事業者に対する発生抑制を促進するための措置

- 2007年4月施行
- 容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するため、容器包装の使用の合理化を行うことが特に必要な事業者に対して、「判断の基準となるべき事項」として排出の抑制に向けた取組を主務大臣が定める
- 容器包装を多量に利用する事業者に対し、取組状況の報告を義務付け、取組が著しく不十分な場合は勧告・公表・命令を行う

# 改正容器包装リサイクル法

## 排出抑制を促進するための具体的内容

1. 容器包装の使用の合理化が必要な事業者  
*小売業者*

2. 容器包装を多量に利用する事業者  
*年間使用量50トン以上(大手・中堅スーパーなど)*

3. 小売業者の判断の基準となるべき事項

(1) 目標の設定

*容器包装の使用量削減に関する目標を策定*

(2) 容器包装の使用の合理化

- ・消費者の排出の抑制を促進
- ・自らの過剰な使用を抑制

4. 多量利用事業者の国への報告: 使用量、削減の取り組み

# レジ袋辞退によるCO<sub>2</sub>低減効果

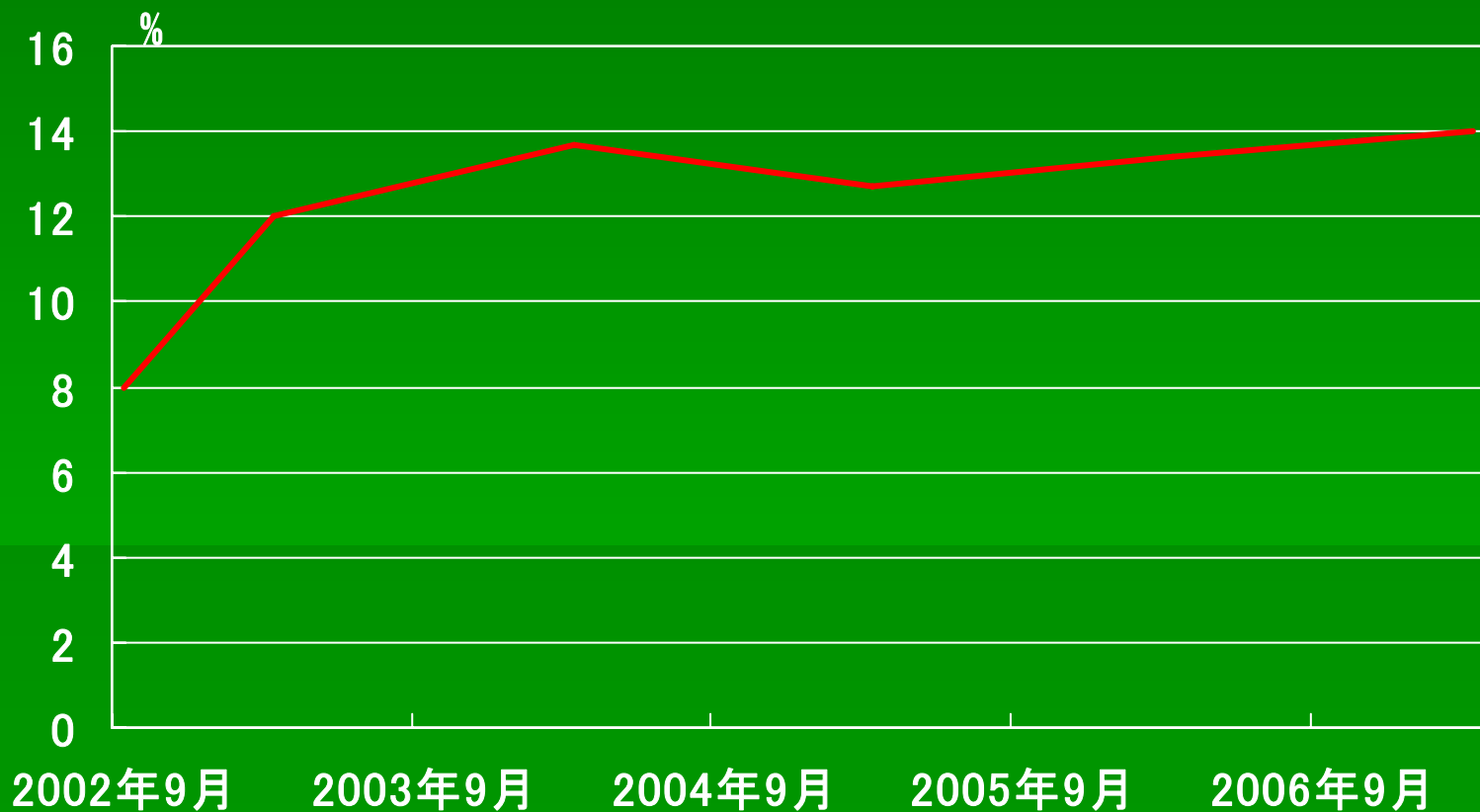
- 年間のレジ袋使用量 約300億枚
- マイバッグ持参によりレジ袋を辞退すれば、1世帯あたり年間約58kgの二酸化炭素排出量を減らせる
- しかし、日本における温暖化ガスの年間総排出量13億6000万トンの0.2%を占めるにすぎない

# レジ袋削減に何を期待するか

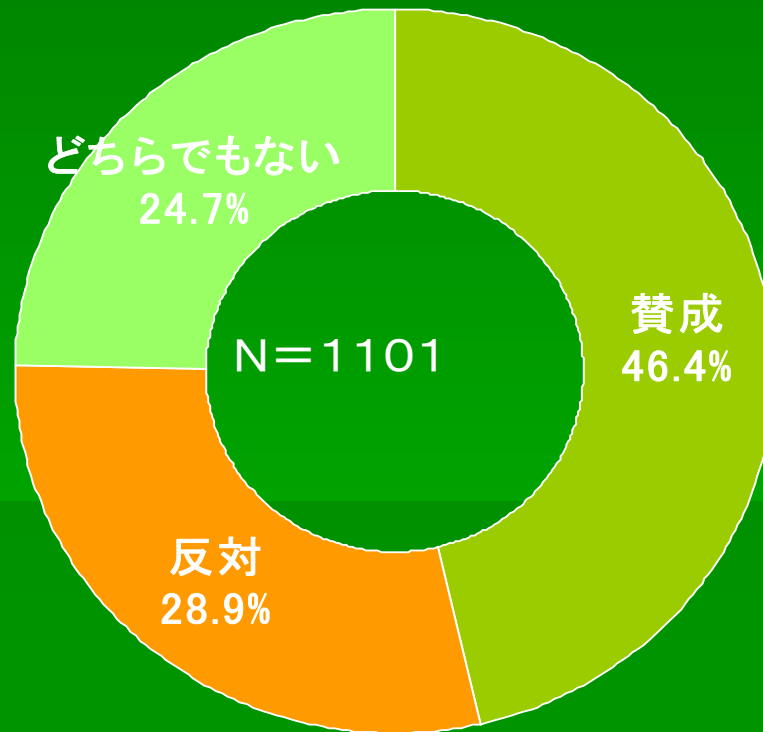
- ごみ減量、二酸化炭素低減にある程度寄与
- 小売店のコスト低減にも寄与
- 消費者が日頃のライフスタイルを見直すきっかけづくり

# レジ袋辞退率

(日本チェーンストア協会)



# レジ袋有料化の賛否 環境省調査





# 杉並区のレジ袋税

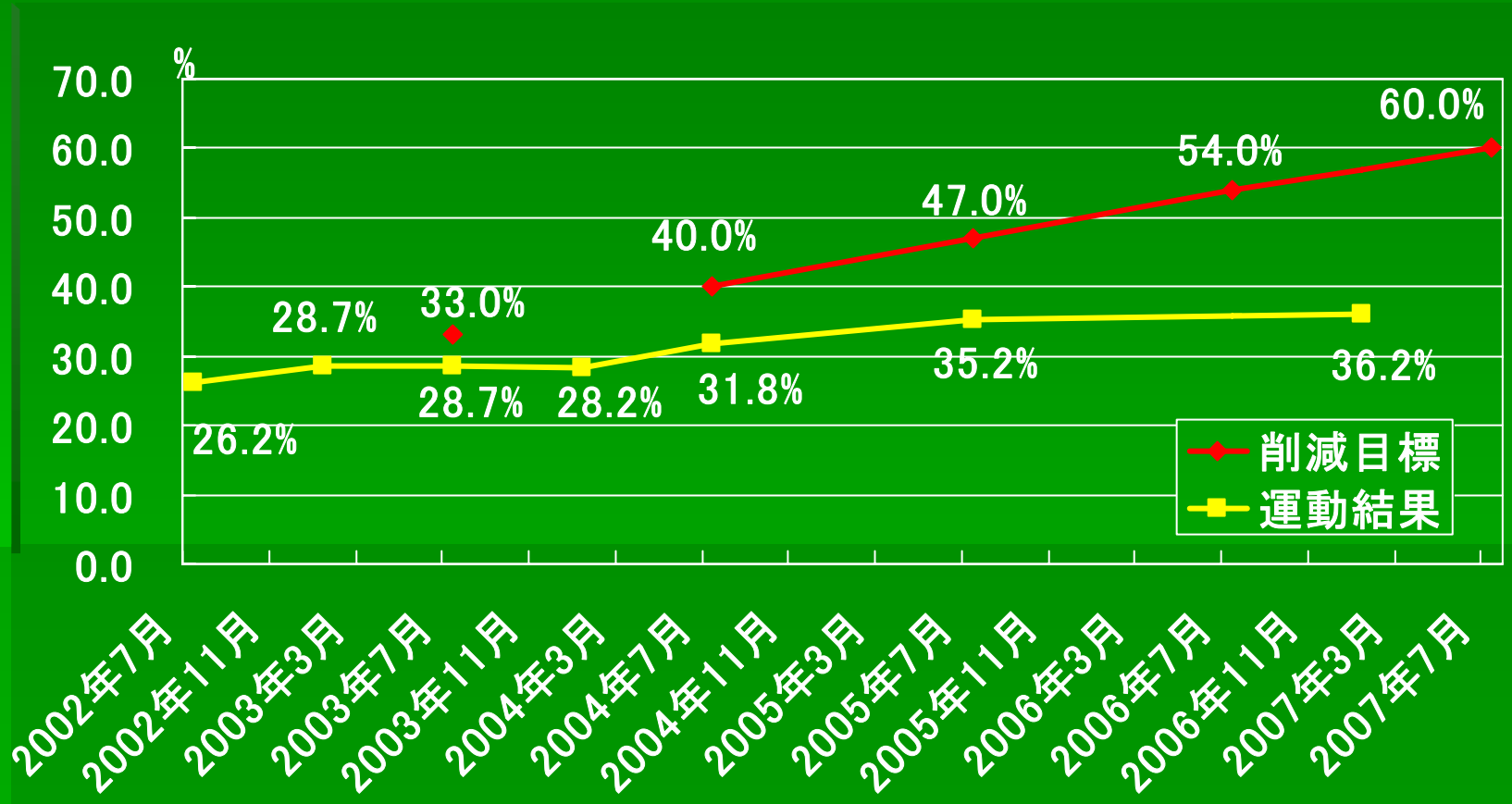
- 正式名称 「すぎなみ環境目的税」
- 小売店で渡すレジ袋1枚につき5円を、店を通じて買い物客に課する
- 特別徴収義務者：区内の小売店
- 2002年3月 区議会で条例成立

**施行時期** 小売店の反対が強く、未定

**エコシール事業** 小売店が参加し、区が支援するレジ袋削減推進協議会がレジ袋辞退客にシールを配り、25枚で100円の買い物ができる

**レジ袋辞退率** 35%程度まで上昇

# 杉並区のレジ袋削減目標と運動結果



# 杉並区のレジ袋削減条例案

2008年度 条例制定予定

- ・小売店にレジ袋削減計画策定を義務づけ
- ・計画に基づいて区が立入検査

# レジ袋有料化の取り組み(小売店)

- 従来からごく一部の小売店で実施  
COOP、Big Aなど
- 2007年度から大手・中堅スーパーの一部店舗で実験導入  
買い物袋持参率が70～90%程度に向上
- レジ袋辞退者に1円値引きする試みも  
西友、ミニストップの一部店舗

イオン:2010年までに全店でレジ袋有料化へ

# レジ袋有料化の取り組み(自治体)

## 小売店と自治体の自主協定による有料化

佐渡市 2007年4月から

伊勢市 2007年10月から

京都市、日野市でも、今年から一部スーパーとの自主協定で有料化

## レジ袋有料化条例の制定をめざす自治体も

杉並区など

# レジ袋削減策の全国事例

地域	事業者	店舗数	時期	価格	辞退率
杉並区	サミット	1	2007. 9	5円	80%
京都市	イオン他	5	2007. 1	5円	80%
仙台市	イオン他3	4	2007. 6	5円	
横浜市	ユニー他4	4	2007. 6	5円	概ね80%
佐渡市	市内小売店	800	2007. 4	概ね5円	
掛川市	掛川スーパー協会	9	2007. 6	概ね5円	
伊勢市	ユーストア他8	21	2007. 9	店舗毎	89%
名古屋市	市内17社	21	2007.10	5円	85%

# 海外でのレジ袋削減の動き

- レジ袋税  
アイルランド(1枚15セント、辞退率90%)
- 法令による有料化  
韓国、台湾、サンフランシスコ、パリ
- 法律による使用禁止  
ウガンダ、タンザニアなど一部のアフリカ諸国
- 自主的な有料化  
ドイツ、アイスランド、フィンランド

# 三方一両得

大きなレジ袋1枚の作製費 3.5円

## レジ袋削減のメリット

小売店: コスト削減

消費者: 環境負荷軽減に寄与する満足感

自治体: プラスチックごみ処理コストの削減

●地域の環境保全にも寄与

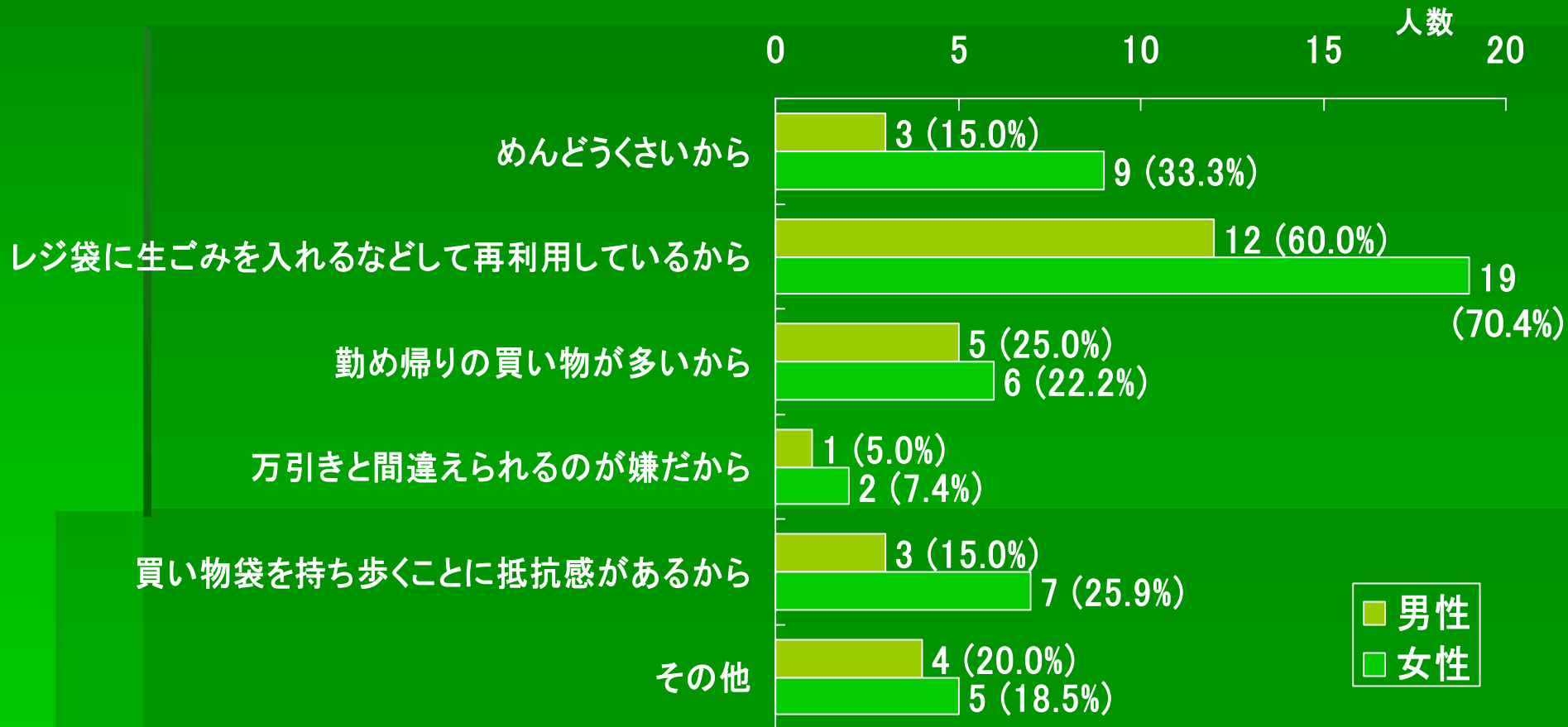


# レジ袋はリユースされている

- 最も多い用途は、生ごみの内袋としての利用(山谷研究室のアンケート調査)
- 指定袋制でない地域では、ごみの排出袋としても利用される

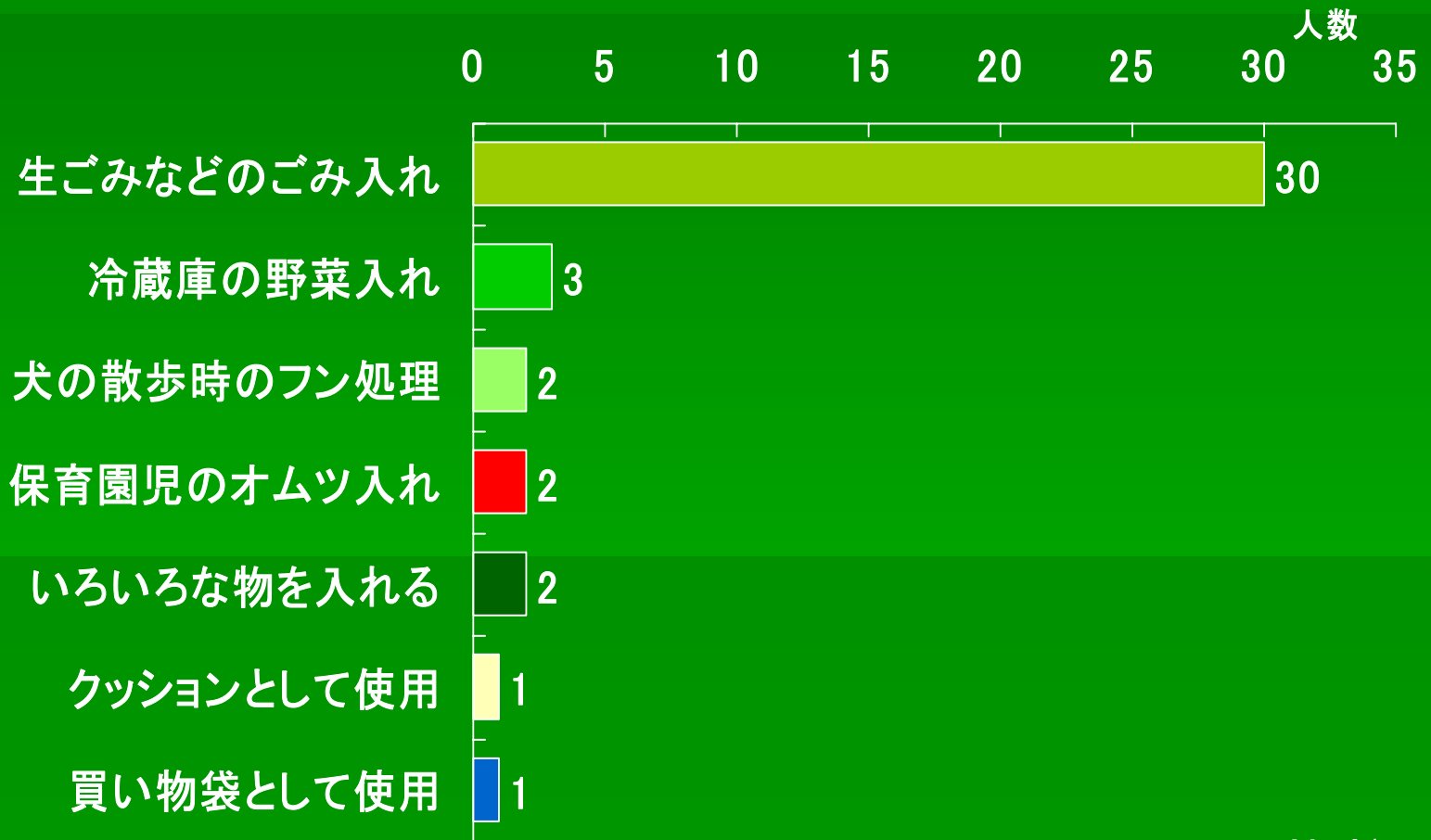
# 買い物袋を持参しない理由（性別）

伊勢市民アンケート調査（山谷研究室）



# レジ袋を再利用する際の用途

伊勢市民アンケート調査(山谷研究室)



N=41

# レジ袋有料化の論点

- 環境負荷軽減のため有料化すべきか
- 小売店の競争条件に影響を与えないか
- レジ袋の多くはリユースされており、有料化する必要はないのではないか
- 有料化ではなく、辞退者への値引きで、必要とする客がレジ袋をもらいやすくするか
- 有料化で小売店が得た収入の用途をどうするか etc